

黒埼町の 公音

執筆 宮田栄門

新聞からたどる黒埼の歴史 (六)

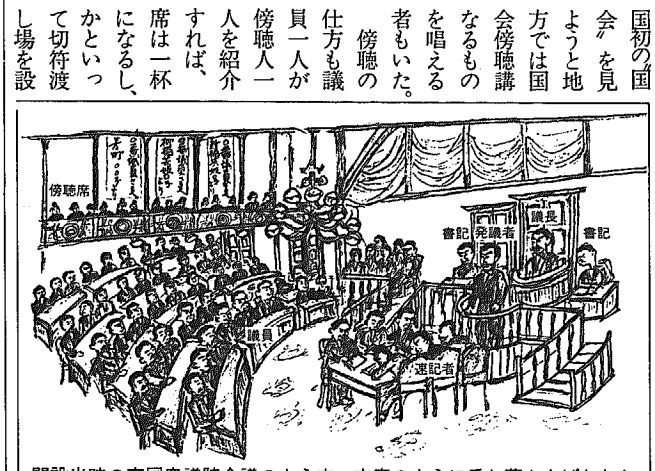
明治時代の国会は婦人の参政権がなく、その傍聴についても否定的な見方があったようだ。

傍聴切符の出し方(国会)

明治二十三年四月八日記事
帝国議会開設の上は吾も人も皆相携へ先づ傍聴に出掛くべく、地方には前年来国会傍聴講などを唱える者結び、開会前よりすでに傍聴支度をなし居る者もあればサテ開会となりたらんには、議会の門前は日々人の山を築く事なるべきが、一条の困難といは傍聴切符の渡し方なり。今各国の慣例を聞くに英仏は共に議員の紹介に依るか、若しくはその前日、会場に赴き住所姓名を通じ置くかの定め。また米國は別に切符を要せず議員まで勝手に入り得べき定め。由。我が國にては如何に定むべきや何れ傍聴規則中の一条として規定するならんが、議場は狭くして三、四百人より容るる能はざるに各議員の紹介に依るれば日々議員が一人宛を紹介すれば早やそれのみにて傍聴席を占められ、議員に縁故なきものは絶へて傍聴もならざる事となるべく、去りとして門前に切符渡し場を

設けこれを渡すとせんか、所謂壯士なる者の占領する所となるのみならず、雑沓のため日々幾多の怪我人を生ずる事なしと測られず、さればその筋に於てもこれに余程の苦慮し居る哉にて、さしあたり門前に渡し場を設くる事に定めあるもの猶工夫中なりと。

帝国議会開設の際に、我が國初の国会を見ようとして地方では国会傍聴講なるものを唱える者もいた。傍聴の仕方も議員一人が傍聴一人を紹介すれば、席は一杯になるし、かといつて切符渡し場を設



開設当時の帝國衆議院會議のようす。文章のように垂れ幕をさげたなら、和やかな會議となつたのだろうか。

けたら混雑のため怪我人をだすと心配していたようだ。

現在、国会の傍聴席は、皇族席(参議院のみ)、貴賓席、外交官席、他議員の議員席、公務員席、公衆席及び記者席にわけられている。公衆席は演壇の正面に位置し、議員の紹介による紹介席と先着順の傍聴券配付により傍聴できる

自由席とに分かれる。日清戦争 明治二十七年(一八九四) 七月二十五日、日清戦争がはじまった。新潟新聞は、開戦一か月前から「敢て戦を好むにあらず。止むを得

ざるものあればなりとは表面を飾る口実のみ。其実は肉踊り血沸いて一挙に北京を押し潰したき我々目下の状況にあらずや」という調子の論説をかかげて、県民の奮起をうながしている。

開戦間もない八月八日鳥原校で鳥原村内の予、後備兵の訣別送会が開かれた。

八月八日鳥原尋常小学校内に於て予、後備兵志賀、深沢、白井、田中、本村駐在巡査小島五人に対し訣別会を開けり。先づ式場を設け村長御影を開扉し、御酒、御肴、饅頭を捧げ、勸語を奉読し式了りて訣別宴会を開く、有志相会する者六十余名にして、席上演説あり一話一言に至るまで皆敵愾にあらざるはなし」注 予備役とは、徴兵制度によつて、満二十歳の徴兵検査に甲種合格となつたものが、一年半から二年の現役入隊を経て除隊した者を言ふ。後備役とは、現役を除隊した予備役兵が三十五歳以上の高齢になると編入されるもの。日清戦争の開戦によつて鳥原村内の予、後備兵五名が何時召集されるか知れないという事で、村はこれらの人を招いて訣別会を開いた。清國との開戦は、我が國にとつて初めての対外戦争で、国民が興奮し、各地で義勇軍結成の動

きが生じ、これを戒める詔勅が出されたという事である。婦人の国会傍聴 明治二十三年十月六日記事 議院規則の個条中には随分種々の議論あり、この程も議員数名落ち合いたる席にてこの談評起りたり、中にも彼の婦人の傍聴を禁する一項話題となり、婦人の傍聴を許す許さぬと言ふが如きは、詰り何れにても可なれども政社法に抵触すると言ふ説は政談と議会の議事とを区別せざる説なりなど、種々の言出づる折柄一議員は大声を發して曰く、素より大に婦人の傍聴を許さざるべからず。殊に余は彼の謂はゆる芸妓なるものなど最も多く来らん事を望む、其の次第は一体の日本人を看わたすに虎髪逆さに落ち、今にも腕力に訴へんとするが如き勢ひの武骨男子も、ソコに二三の婦人加わりてやさしき言葉をかければ、青葉に塩の如きが多し、彼の芝居などの如く今日は柳橋総傍聴、明日は新橋の総傍聴と言ふ有様ならば議場は毎日誠に平穩ならん、一人嘴を入れて曰くマサカに芸妓を紹介して傍聴せしむる程の勇氣ある議員もなからん前者更に弁じて曰く他に紹介者なくば奈進んで之を紹介者たらん、彼の赤羽織の坊主などが日々来たりて議員と芸妓

の間にはヨコヒヨコするなどは随分奇観なるべし、其の内に愚員議員、人気議員と言ふものも出来て、何番議員さんへ芳町何吉よりなど言へるヒラ引幕など出づるも■た英雄の名譽と言わざるべからず記者曰く成程これが当世ならん。議員数名が集まり、婦人の国会傍聴について論じていた。一議員は婦人の傍聴は賛成、殊に芸妓などの多く来る事を望む。その訳は僅かな意見の相違でも互に譲らず腕力に訴えようとする議場に、「三人の婦人が傍聴に来てやさしい言葉をかければ居丈高の議員たちも忽ち青葉に塩になるだろう。だからいっ、こ、芝居のように今日の傍聴は柳橋芸妓に貸切り、明日は同じく新橋芸妓に貸切りという様になつたら議場は毎日平穩だろう。ある議員はマサカ芸妓を傍聴人に紹介する者もあるまい。前者は紹介者が無ければ自分がなろう。赤羽織を着た坊主(たいこもち)が議員と芸妓の間をヒヨコヒヨコすれば、誠に奇観だろう。その内に愚員議員などがきて何番議員さんへ新橋何子などの引幕でも出たら英雄(議員)の名譽といわなければならぬ。記者曰く「成程これが当世か」。婦人傍聴を擲論した一文である。



平成大橋開通式風景 上/新橋の渡り初めの様子。県警カラーガーズを先頭に、黒埼町と新潟市の三世代夫婦、関係者が次々と渡った。二番目/安全祈願などの神事の模様。三番目/帝石橋石碑の除幕式。四番目/知事、町長、市長らがテープカットをして開通を祝う。左下/渡り初め直後の平成大橋。新潟市側から黒埼を臨む。

黒埼町と東新潟の「かけ橋」に

12月19日(日)、平成大橋が開通する



十二月十九日、老朽化した帝石橋に変わって建設していた「平成大橋」が完成し、開通式が行われました。

橋を後世に伝えていこうと設置されたものです。(由来については下をご覧ください)

十、四車線で左右に三・五mの歩道があり、自動車だけではなく、自転車や徒歩でも渡りやすくなり、また、交通渋滞の解消にも大きな効果があるようです。

まず初めに午前九時から神事が行われ、国、県、町、市の関係者や工事関係者、付近の総代、自治会長らが参加して新橋の安全を願いました。

そのあと、黒埼側橋詰の歩道に設置されている石碑に移動して、知事、町長、市長らが石碑の除幕式を行いました。

この平成大橋は長さ二百九

帝石橋の由来

帝石橋は、帝国石油備が関屋、内野方面で生産する天然ガスを鳥屋野方面に供給するガスパイプ専用の木橋として計画されましたが、県・市の要望を受けて自動車の通行可能な永久橋に計画が変更され、昭和三十三年十一月二十五日、現平成大橋の上流三十mに完成しました。(中略)当時、信濃川に架かる橋としては下流から万代橋、昭和橋に次ぐ三番目の橋であり、黒埼町と新潟市を結ぶ幹線道路としての大きな役割を果たしました。また、昭和三十九年の新潟地震では唯一無傷の橋として震災復興の生命線となるなど、地域発展の礎となりました。(中略)ここに由来を記し功績を永くたたえることとします。

